

2026年度 SYLLABUS 【博士前期課程】

授業科目名：地域経済学特論		専修：経済専修
担当教員名：樺 克裕		科目区分：展開科目
<p>授業科目概要：</p> <p>現在の日本の地域経済は、モータリゼーションや立地規制の緩和等により伝統的な商店街の多くは疲弊し、空き店舗が目立ち、グローバル経済の影響を受け、中小製造業も円高の進展や下請け関係の解消等厳しい状況にあり、地方に誘致した大企業の工場も数年で移転、閉鎖する等大変厳しい状況にある。</p> <p>この授業では、地域経済の実情をデータで紹介し、地域経済のメカニズムを理論分析と実証分析を組み合わせる。</p>		
<p>履修上の留意事項：</p> <p>経済専修の科目につき、ミクロ経済学の基本的な内容は学んでいることが前提となる。</p>		
教科書・参考書（参考文献）		
<p>書名：『都市・地域経済学への招待状[新版]』</p> <p>著者／編者：佐藤泰裕</p> <p>出版社：有斐閣(有斐閣ストゥディア)</p> <p>出版年：2023年</p>	<p>書名：『都市経済学(第2版)＜プログレッシブ経済学シリーズ＞』</p> <p>著者／編者：金本良嗣・藤原 徹</p> <p>出版社：東洋経済新報社</p> <p>出版年：2016年</p>	
<p>書名：『都市経済学』</p> <p>著者／編者：高橋孝明</p> <p>出版社：有斐閣(有斐閣ブックス)</p> <p>出版年：2012年</p>	<p>書名：『入門都市経済学』</p> <p>著者／編者：浅田義久・山鹿久木</p> <p>出版社：ミネルヴァ書房</p> <p>出版年：2023年</p>	
<p>書名：『歩いて学ぶ都市経済学』</p> <p>著者／編者：中島賢太郎・手島健介・山崎潤一</p> <p>出版社：東洋経済新報社</p> <p>出版年：2025年</p>	<p>書名：『経済学で考える 人口減少時代の住宅土地問題』</p> <p>著者／編者：土地総合研究所編 山崎福寿・中川雅之著</p> <p>出版社：東洋経済新報社</p> <p>出版年：2020年</p>	
ディプロマ・ポリシー（DP）との関係		
DP1	DP2	DP3
○	○	○
<p>到達目標：</p> <p>理論分析と実証分析を組み合わせ、地域経済を観察する俯瞰的な視点を養うことが目的である。</p>		
<p>評価方法及び評価基準：</p> <p>評価は授業中の貢献と課題によって判定する。</p>		
<p>授業の方法：</p> <p>輪読形式で授業を進める。受講者は、割り当てられた部分について発表する。それについて、私の方からコメントや質問等を行い、議論を深めていくことを考えている。</p>		

第 1 回	テーマ：日本の地域と都市 内 容：日本の地域と都市の現状
第 2 回	テーマ：地域の産業構造 内 容：産業構造と産業連関表
第 3 回	テーマ：地域間人口移動（1） 内 容：地域間人口移動の現状
第 4 回	テーマ：地域間人口移動（2） 内 容：地域間人口移動の理論分析
第 5 回	テーマ：集積の経済と都市化（1） 内 容：人口集中の利益と不利益
第 6 回	テーマ：集積の経済と都市化（2） 内 容：集積の経済の理論
第 7 回	テーマ：住宅市場 内 容：地価と地代の理論分析
第 8 回	テーマ：都市内土地利用の分析（1） 内 容：チューネンモデル
第 9 回	テーマ：都市内土地利用の分析（2） 内 容：アロンゾ・ムース・ミルズモデル
第10回	テーマ：都市システムモデルと最適人口規模（1） 内 容：都市規模決定の基本モデル
第11回	テーマ：都市システムモデルと最適人口規模（2） 内 容：都市システムモデル
第12回	テーマ：地域間交易 内 容：地域間交易のモデル
第13回	テーマ：空間経済学 内 容：空間経済学のモデル
第14回	テーマ：交通サービス 内 容：交通経済学のモデル
第15回	テーマ：地方政府と地域経済 内 容：租税競争・公共財の供給